

まえちゃうす
前茶臼ナギ

小渋川へ供給される土砂の一大生産源

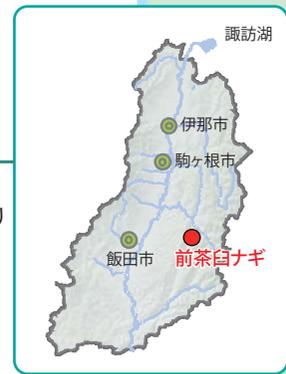
小渋川上流上沢に位置する前茶臼山東側に広がる崩壊地。
前茶臼山断層に関連して、崩壊が生じている。地質的には秩父帯でジュラ紀の緑色岩・チャート・砂岩・泥岩の互層により構成されており、1898(明治31)年及び1929(昭和4)年に大災害が発生したと伝えられている。



荒川岳から見た前茶臼ナギ
遠くには大西山崩壊地や百間ナギが見える



小渋川の流出土砂量の大半を生産しているとされる大崩壊地



information

□ アクセス
南アルプス登山道より
確認できる

□ 所在地
大鹿村



前茶臼山の大崩壊は、小渋川の支流上沢の上流に位置する。
この位置は、西に戸台構造線、東に仏像構造線、北に小渋断層、南に茶臼断層と、構造線や断層に挟まれたくさび状の部分にあたることから、崩壊の原因は、このような地質構造にあると考えられている。

ナギとは山をナギ落としたような崩壊地のこと。
1898(明治31)年7月に前茶臼山の斜面が大崩壊した。上沢直下にあった小渋湯温泉が被災し、死者10名にのぼる被害が発生した。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)